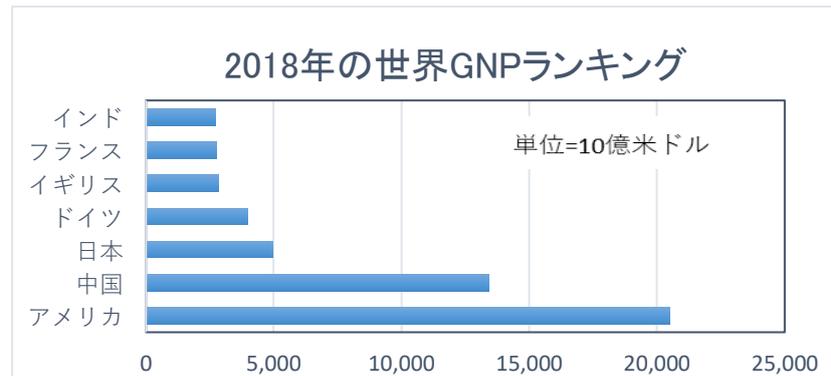


## 「心の資本」を増強しよう

ご存知だろうか、GNH(Gross National Happiness)国民総幸福量は国民全体の幸福感を示す尺度だ。ブータン国は、国民一人当たりの GNH 幸福量を大きくして社会全体の幸福を最大化することをめざそうと提唱して、政府の具体的な政策が実施されている。社会の幸福量というのは、どのように計測し図ることができるのだろうか。

経済の規模やその量は金融資産とか社会資本として、一般にはお金の換算して計測できる。工業や農林水産業の生産高、商業やサービス業などもお金の換算して評価する。日本をはじめ先進国は、経済成長



を続けて GNP(Gross National Product) 国民総生産を引き上げてきた。上図のとおり超大国の米国の次に中国、続く日本は今や世界第 3 位の GNP を誇る経済大国だ。世界で大変に恵まれた国の一つになっている。

従来の資本による経済成長が人類の求める究極の姿かどうか、近年の世界情勢からみても少々怪しくなってきた。各種産業や会社の成長と生産性の向上に「心の資本」が欠かせなくなってきたと、ときどき聞かれるようになった。「心の資本」とは「自分が幸福だ、安心だ」と感じる心の状態を維持するための資本をいう。ちょっと分かりにくいですが、「心の資本」を増強するための 3 つの手がかりを紹介する。

- (1) 日立製作所が開発したハピネス(幸福感)計測技術がある。人体の筋肉や血流の微妙なゆらぎを一定期間計測して、その人の幸福感との相関を明らかにした報告。
- (2) 職場や仲間同士お互いに認め合う、アドバイスをもらうポイントが多いこと、「いいね!」を交換し合う人間関係が多いこと。
- (3) 自分の行動や歩む道を、自分で選択して決定できる幸福感。「自己決定」の重要性は、財産や経歴の大きさより、「心の資本」増強するためにはるかに大きな役割を果たしている。

人生 100 年時代の戦略と超高齢者(super old)の幸福は「心の資本」を大切に、いかに老後の人生を短くするかということだ。ここで老後とは、すべての「心の資本」を失ったときのことをいう。

参考資料：『Opinion 心』日本経済新聞 2019年7月1日

『幸福の資本論』橘玲著 ダイアモンド社 2017年6月発行

『ウェアラブル技術による幸福感の計測』矢島和夫ほか著 日立評論 2015.06.07